

1/16/2011「わたしは道である」ヨハネ14:1-7

「わたしは道であり、真理であり、命である。」これは主イエスの良く知られた言葉です。この言葉にどのような意味が込められているのでしょうか。

主イエスが示された道、それは、神の道、真の道、命へとつながる道、つまり人間を本当に人間らしくする道だということです。それに反して人間の常識が考え出す道は、人間らしさを破壊するまやかしの道、つまり死につながる道だということです。

人間らしさを破壊するまやかしの道とはどのようなものなのでしょうか。その具体的な内容は、イエスの時代のユダヤ社会を金縛りにしていた価値観に明らかです。

その教えの一つは、心身ともに健康な者だけがまともな人間だという常識です。社会的な成功を収めた人や富を築いた人だけが神の恵みに与ることができるということです。

これは社会の10%を占める健康な者や、富裕な人には有り難い教えですが、病気で働けない人や働きたくても働き口のない90%を占める貧困層の人にとっては、過酷極まりないものでした。

ですから、悪い雇い主にいじめられて仕事を失った人は、自分が悪いのだと思わなくてはなりません。災害で家族や家屋を失った人は、自分が悪いことをした報いだと思わなくてはなりません。病気にかかった人は、神から呪われているのだから社会からつまはじきされて当然だと思わなくてはなりません。

それだけではありません。人間の常識が考えだしたまやかしの価値観は、人と人とを分け隔てる社会を造り出してしまったのです。

当時の差別社会の特徴は三つに大別できます。一つは徹底した女性蔑視です。女性は男性の言うがまま、鍋をこがただけで離縁されても文句は言えなかったのです。

二つ目、それは、ユダヤ民族優越主義です。神の特別な恩恵に与っているのはユダヤ民族であり、異邦人、つまり非ユダヤ人は、神の愛と慈しみの範疇の外に置かれているという排他主義をそれは生み出したのです。

そして三つ目。それは、差別と抑圧の神学的正当化です。神はユダヤ人だけを愛し、異邦人を排斥する。神は富裕な人々、健康な人々を慈しみ、貧しい人々、病気の人々を呪われる。そのような信仰理解から、差別が神の意思の現れだと考えられたのは当然でした。

主イエスは人間の常識が造り上げたこれらの主張を徹底的に否定されました。

人間の常識が造り上げた教えは真の道ではない。それはまやかしの道であり、人間らしさの喪失への誤った道だと主張して飽きることはありませんでした。

その警告は、21世紀に生きる私たちにも迫力をもって迫ってきます。何故なら、私たちがまたこの世的成功を人間の価値を測る基準とし、男性優位を当然のこととして受け入れ、他民族を異質な存在として排除しがちだからです。

ですから、私たちもまた、イエスの時代のユダヤの民のように、人間喪失の道から人間らしさの道へと歩みを変える必要があります。

人間らしさへと導く道、人間の尊厳を何があっても絶対に否定しない道とは何でしょうか。それは主イエスご自身です。「ユダヤ人もなく、ギリシャ人もなく、男も女もない。奴隷も自由人もない。神においてあなたたちは一つなのだ。」このメッセージを身を以て体現された主イエスこそ、道です、真理です、命そのものです。